

山と共に生きる地域づくりを目指して

ふるたん通史_{総集編}

(2017.9)

NPO法人 ふろんていあタウン工房



ふろんていあタウン工房は、1973年3月に発足したURワンダーフォーゲル同好会の、設立40周年記念遠征登山をきっかけにして誕生しました。

「日本のニュータウン開発」に、創成期から携わってきた日本住宅公団(現UR都市機構)の「ワンダーフォーゲル同好会」は、1973年3月16日多摩ニュータウンで誕生しました。設立40周年記念事業として、2013年3月25～31日ミャンマーの仏教遺跡のまちバガンの西方チン州のナマトン国立公園にあるピクトリア山(3053m)への遠征登山を実施しました。

「多摩ニュータウン」から富士山を望む

設立記念の海外遠征登山が始まったのは、20周年のキリマンジャロ(1993.12.25～94.1.8)からです。30周年は海外の準備が整わず、35周年行事にズラして2009年7～8月に台湾・玉山登山を実施しました。



設立40周年記念ビクトリア山(3053M) 遠征登山報告を載せた都市機構ワン ダーフォーゲル同好会の機関紙「渡り鳥通 信」第910号(2013.4.15)

都市機構ワンゲル同好会

渡り鳥通信



UR-WW No. 910号:平成25年4月15日



□ 3月々例 Wanderung 報告

40周年記念事業「MT.VICTORIA PROJECT」

ミャンマー・ビクトリア山・第1次調査登山

「飯能の登山道づくりの次はミャンマーの山小屋づくり」と呼びかけていましたが、龍崖山公園が完成し、飯能の地区の事業完了記念式典が行われた3月24日の翌日に出発するというめぐり合わせになりました。山小屋づくりは時間がかかりそう

なので息子二人を同行させたら、江頭さんにはお孫さん二人が随行、記念事業にふさわしい多世代プロジェクトを予感させるスタートになりました。

日程 ; 2013年3月25日(月)~31日(日)

メンバー ; 室井+3(惟知・斐呂・伊斗子)

江頭+2(一馬・猪川洸太郎)

コースタイム ;

3/25 13:55 発の大韓航空で成田発、ソウル(仁川)経由でヤンゴン着 22:45 日本とミャンマーは時差2時間半なので現地時間では26日1:15 ホテルで仮眠 (以下現地時間で表示)

3/26 4:30 ホテル発 6:30 発のヤンゴン航空の国内便で

バガン(ニャンウー空港)着 8:00 パジェロの中古車3台に分乗し陸路(ほとんど悪路)8時間の旅チン州へ向かう。カンパレッシュ村とのほぼ中間点にあるマグエ管区アイジー村の食堂で昼食。我々のビクトリア登山のベースであるカンパレッシュ村のパインウッドピラ着 16:00 自家発電の電灯は10時消灯



設立40周年記念登山は、「モンブラン」(4810M)との選択制ダブル登山として行いました。



都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 917 :平成25年8月8日

□ UR-WV 40周年記念事業

◇ヨーロッパアルプス最高峰

『モンブラン登頂 (4810m)』 (先発隊 9日間)

先発隊

■日 程 平成25年7月19日(金)～27日(土)9日間

■参加者 瀬川基之、牛久保亮一、牛久保悦子

後発隊

■日 程 平成25年8月9日(金)～17日(土)9日間

■参加者 阿久津賀央

今回のモンブラン参加者は4名。仕事等の都合上、先発隊、後発隊の2隊に分散して実施することにした。

このメモは先発隊に加わった牛久保亮一の記録である。

『モンブラン登山』

1日目7月22日 朝 7:25 サン・ジェルベからケーブルでモンブラン登山口ニ・デーグル(標高 2372m)へ。8:30 登山開始。急な岩稜の道をジグザグに登る。聞いていたとおりかなりの歩行スピードだ。10:20 テート・ルース小屋(標高 3172m)。ここまででかなり疲れた。大雪渓手前でアイゼンを着け、ガイドとアンザイレンし先ずはこの大雪渓をトラバース。左上から雪渓の上を落石が音もなく落ちてくる。その数の多いのには驚いた。さらに岩稜を越え滑落事故の多いクールワールの雪渓をトラバース。途中水が流れていて前後の凍結には注意。

記念登山ではありませんが「渡り鳥通信」で最初に海外の報告を載せたのは第53号(1974.8.27)、ゴビ砂漠を目指してモンゴル高原を歩いています。

渡り鳥通信 No.53
740827
多摩VV




ホジルト KHUJURT 遭難記

- 8/5 ウランバートルから迎いの飛行機が来る予定の日。だが有視界飛行のプロペラ機のため、東の山に雲がかかるので絶対に飛ばないという。切実でない雲を横目にあきらめて馬のネグデル(協同組合)を見に行く。
- 8/6 本当ならゴビ砂漠へ行く日だが、東の山には雲がかり、待てど暮せど飛行機は来ない。たいていこのころうたなし。風はまきを削ってバットを作り、日英在独家混成子で野球をやる。夜は17時の中で紙を切って17時を作り、麻を、星が近くにきれいに見える。
- 8/7 東の山には今日も雲。午後3時ついに飛行機をあきらめ、日本人パーティーとフランス人パーティーの2台のマイクロバスが道なき道を一路ウランバートルへ。車窓には馬牛羊、サウ、ワシ、ギョウ、野ネズミ、エルク、モモンガ、サシ、シカ、etc. しかし、車の中の強烈な17時に内臓が17時になり、景色を染し、冷格死。
- 8/8 午前9時、日本人パーティーの車オーバーヒート。全員フランス人の車に乗り換え、乗せなくてひともんちやく。午前10時30分、ついに降りてウランバートル行のバスに乗る。この間20時間、バスから降りても、世の中が17時しているような気がした。

その他、いろいろなことがありましたが何といってもKHUJURTでの4日間の印象が強烈でした。他の話は、飲みながらでも…… 室井記

5ミリ方眼紙を使ったまだ手書き青焼き配信だった時代の通信です。

2013年3月25～31日 ビクトリア山トレッキング

ビクトリア山登山道調査； 花と緑の山の環境を守り育てるためのルールづくり、自然を愛する多くの旅行者をどのように迎え入れ、 緑の保全・登山道の改良をどのように進めるか



カンペレ村生活調査； 山と共に生きる山麓の村の生活を向上させる村おこしへの取り組みを、ミャンマーの人たちと一緒にどのように進めるか





**ビクトリア山登山口で
ナマタン国立公園のJICA植物調査
を担当された
アース・ウオッチ・ジャパンの
安田重雄さんと偶然出会う**



**日本ミャンマー協会ヤンゴン事務所の
テッセインさんと
ピース・イン・ツアーのガイドの
ウィメンティさん**

遠征登山から帰国後、ミャンマーの辺境(フロンティア)の地での
「山づくり」(山の魅力を高める環境保全活動)と
「まちづくり」(山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動)に
取り組む団体「ふろんていあタウン工房」の設立を目指し
今回の遠征登山を第1次隊として
引き続き第2次・第3次の調査登山を計画して
Mt. Victoria Projectを進めることにしました。

2013年9月21日 「ふろんていあタウン工房」設立発起人総会
2014年2月22日 「フロンティアまちづくり読本」発行
2月26日 機関紙「ふろタン通信」創刊号発行

「タウン」は、日本では「まち」、ミャンマー語では「山」です。

ふろんていあタウン工房の「精神」を伝える

ニュータウン転生レポート

「フロンティアまちづくり読本」

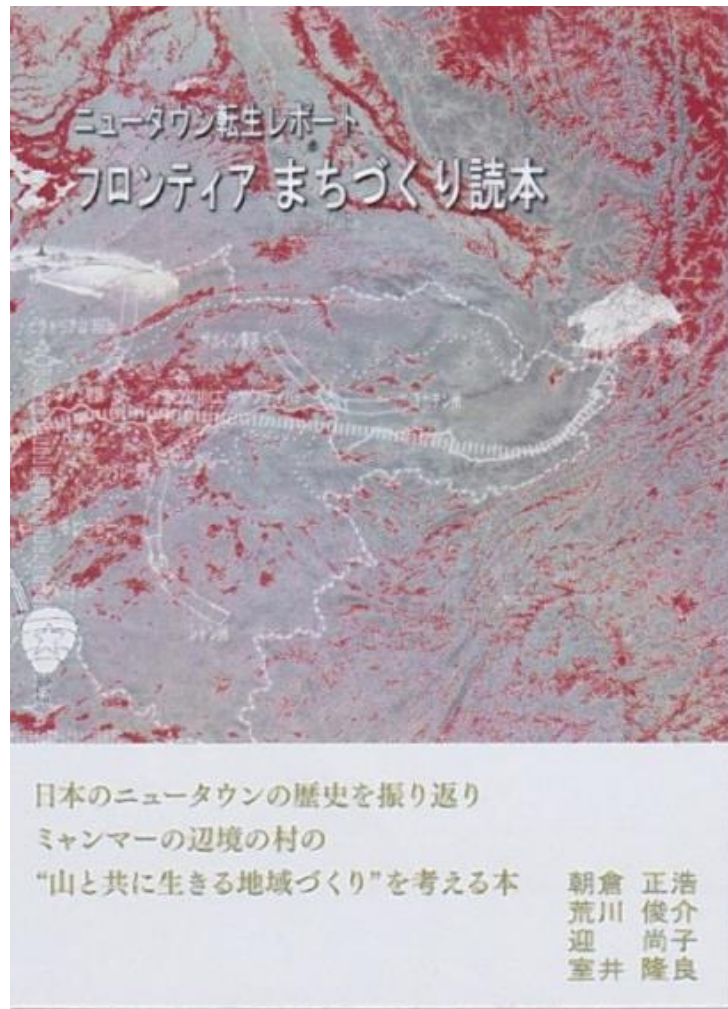
定価1,200円+税

「フロンティアまちづくり読本」は、1960年代から相次いでスタートした日本のニュータウンの推移を、「多摩ニュータウン」と「筑波研究学園都市」の二つのニュータウンを中心に「全国総合開発計画」の変遷に重ね合わせてクロス分析しまとめたレポートです。

NPO法人の設立前に発刊した「フロンティアまちづくり読本」では、隣り合う管区と州が手を繋ぎ共に成長する国土計画の夢を、「ビルマの縦軸構想図」に描き、本の表紙にも背景のイラストとして載せています。

「国土の均衡ある発展」「民族を超えた交流ネットワーク形成」が、

Mt. Victoria Projectで伝えたい、ふろんていあタウン工房の「精神」です。



「ビルマの縦軸」構想図



“国土の均衡ある発展” 隣り合う管区と州が手を繋ぎ共に成長する国土計画の夢を、「ビルマの縦軸構想図」に描いています。

「ビクトリア山プロジェクト」のロードマップ(行程表)

STAGE I-1 ナマタン国立公園事務所に協力

ナマタン国立公園内のビクトリア山と山麓地域一帯の自然環境を保全し、ビクトリア山の森を守り育てるルールづくりと、環境整備計画づくりに取り組みます。

STAGE I-2 日本の旅行社と連携

ボランティア活動による登山道整備や、自然教室での体験学習などのメニューを取り入れた新しい形態のトレッキングツアーを企画し、村の人たちとの交流を深めてビクトリア山を守り育てるルールの周知を図るとともに、村おこし技術の掘り起こしに取り組みます。

STAGE II 生活の向上を目指す村おこし

自然を愛する多くの旅行者を迎え入れて、ビクトリア山の魅力を高める新たな形態の観光産業の振興を図り、それと連携する地域産業の育成・村の生活の向上を目指します。

STAGE III 友好交流拠点「山小屋」づくり

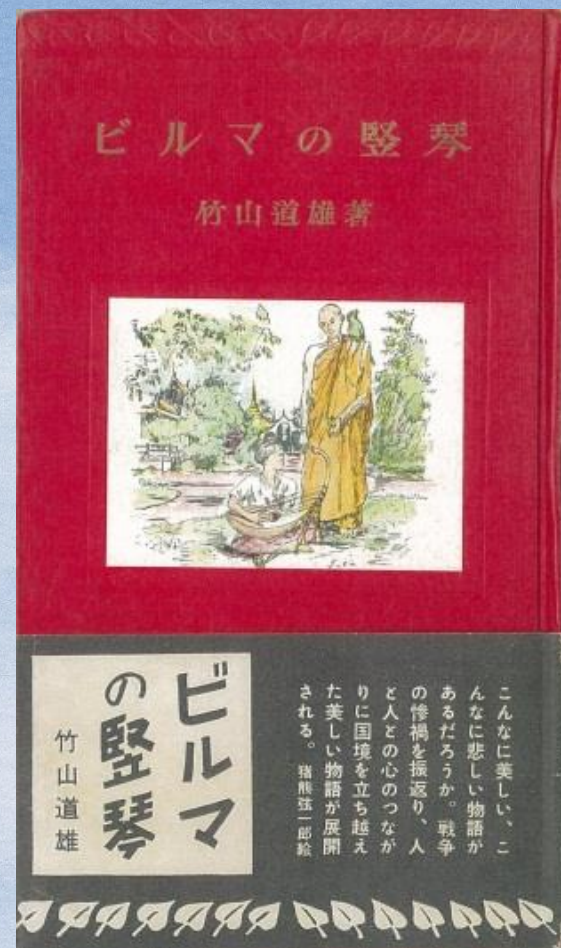
「ビクトリア山プロジェクト」の参考になる活動を行っている日本の町・村との交流活動を進め、日緬友好交流の拠点施設づくりを計画、ビクトリア山の森を守り育てる持続的な活動を行う、「ビクトリア山・山小屋」構想の実現を目指します。

ミャンマーはこれから経済成長期を迎えて急激に変貌しようとしています。大都市圏での雇用拡大・人口集中・増加が予想される中で、北の高原山岳地帯から南の臨海部まで、多くの少数民族を抱える多民族国家であるミャンマーにとっては、国土の均衡ある発展を如何に図るかは非常に大切なテーマだと思います。

「多摩ニュータウン」や「筑波研究学園都市」を手掛けた日本住宅公団(現UR都市機構)は、戦後10年目の1955年に設立され、第1号団地(金岡団地・稲毛団地)が世に出た1956年は、経済白書が「もはや戦後ではない」と謳い、日本が国連に加盟した年です。そしてその年は市川昆監督の旧作の「ビルマの豎琴」が上映された年です。

日本とミャンマーとは、ビルマの時代からの長い歴史の中で深い交わりがあった国です。「集中」と「スピード」だけでなく「広域的」で「長期的」な視点に立って、諸外国とは違う日本発の「息の長い技術協力」を見つけてみたいと思います。

(「フロンティアまちづくり読本」プロローグより)



「フロンティアまちづくり読本」を出版後、NPO法人設立に向けての取り組みが始まります。ここからは、「ふろんていあタウン工房」の設立に繋がる「前史の時代」のビクトリア山プロジェクト活動のあゆみについて、ワッゲル同好会の機関紙「渡り鳥通信」で述べていきます。

2011年11月19日 「飯能・自然の回廊」探索



都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 878号 平成23年11月25日

□ 11月特別企画：飯能自然回廊の探索

「秋雨の中、飯能自然回廊を探索しました。」

- 実施日：平成23年11月19日(土)
- 参加者：瀬川・室井・鶴見・石原・高田・朝倉 計6名
- コース：飯能駅 10:00→あさひ山 11:00→龍崖山 13:30→八耳堂 14:00(昼食)→吾妻峡 15:00→能仁寺→市街地/団子屋(休憩)→東・飯能駅 16:00(解散)

○序章：飯能美杉台と第2地区の間に「あさひ山公園」が今年春にオープンした。

- 今では遠く富士山、筑波山や東京スカイツリーまで展望できる公園として美杉台が一番の人気スポットになっている。背後(北側)には飯能らしい山が連なってハイキングコースも整備されているが、ハイカーはまだ少ない。昔「朝日山」や大河原「龍崖山」は地元で信仰的な山として祀られて初日の出には地元の方も登るなど往来もあったらしい。
- 今回の企画は、造成中の大河原「龍崖山」と「あさひ山」を結ぶハイキングコースを作ろうと、当時担当課長だった室井さんの呼びかけで、住民である高田(現在地区担当)と朝倉が加わって下見調査などしながらの登山道探索の一日企画であった。

〈参考〉 <http://www.imae.co.jp/column/2011/09/>

○雨のスタート

- 数日前から降雨確率60%、当然中止の案内すべきを、幹事M、T両名の「多少の雨だったら決行だよね」の強い一声で、直前に「有志参加」に修正。
- 予想どおりの強者6名が参加。朝10時飯能駅から雨ガッパを着込んでの行進である。逆ルートで初めに美杉台北側から登るハイキングコースまで市街地を抜ける。約30分で「あさひ山」に到着。小雨の中だが家族連れが数組登ってきた。(写真「あさひ山」→)



「飯能・自然の回廊」とは？

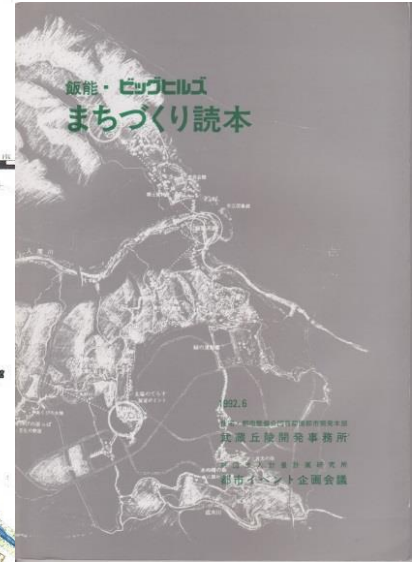
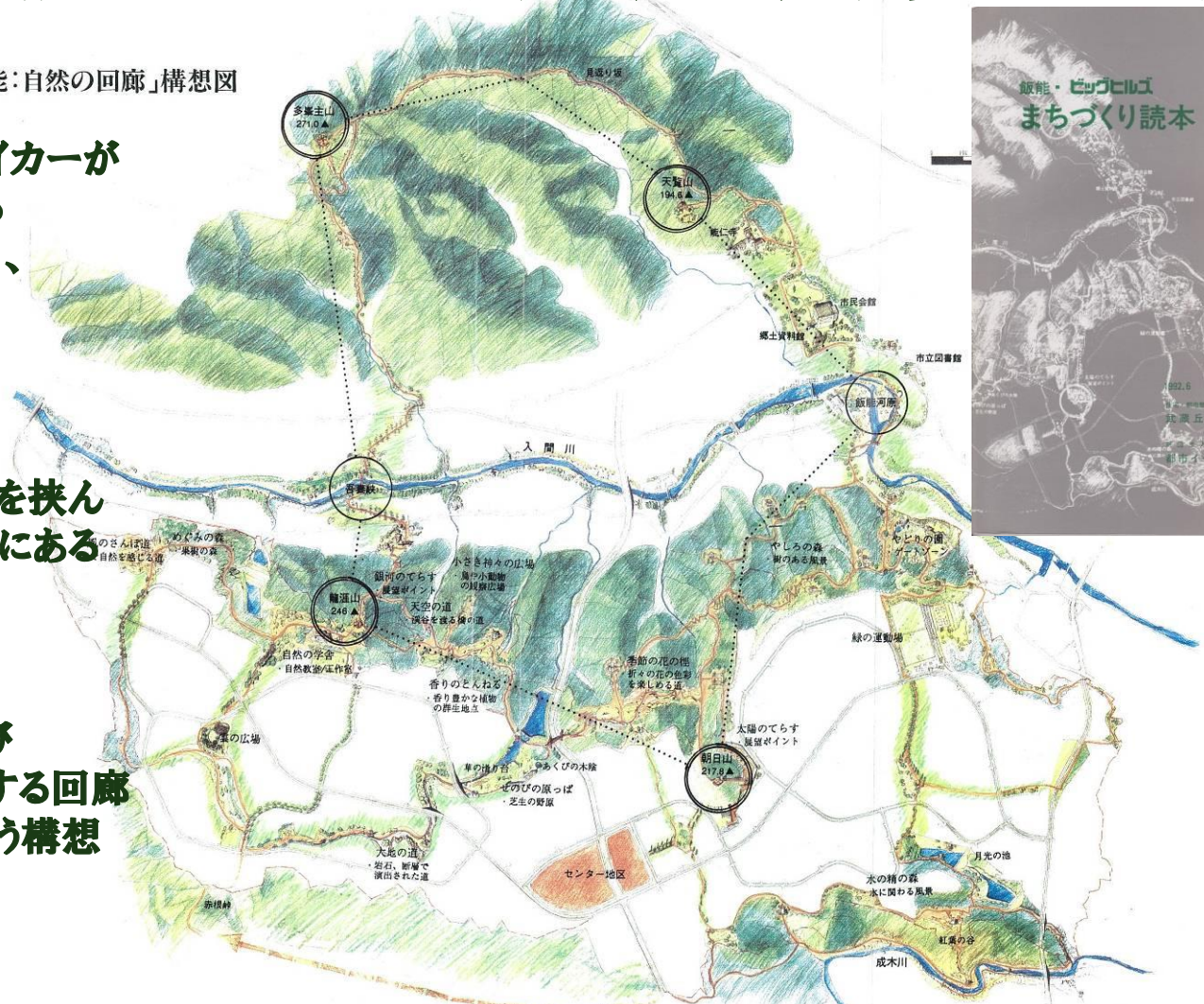
「飯能・ビッグヒルズまちづくり読本」(1992.6)で提案された計画です。

「飯能：自然の回廊」構想図

古くから多くのハイカーが訪れ親しまれている天覧山と多峯主山、

二つの山と入間川を挟んで対峙する丘陵地にある朝日山と龍崖山、

四つのピークを結び飯能のまちを眺望する回廊を誕生させようという構想です。



1990年代ウォーターフロント開発が脚光を浴びていた時代、郊外丘陵地でのグリーンフロント環境を生かしたライフスタイルの実現を目指そうとしたレポート

1992年に書かれた「飯能ビッグヒルズまちづくり読本」のあとがきの中にある南條道昌さんの言葉は、2014年発刊の「フロンティアまちづくり読本」のエピローグにそのまま掲載されています。

「共通の約束事を守ってともに生きていく仕組み」

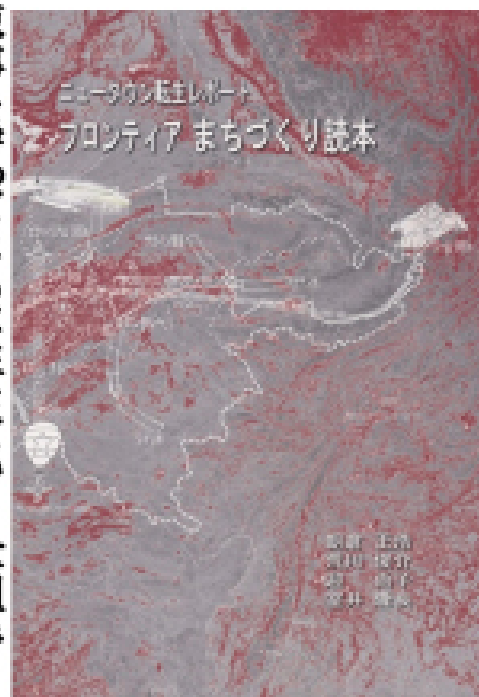
南條 道昌

ニュータウンや団地の生活は、確かに核家族のマイホームという家制度からの解放や自由を手に入れる道具だてでした。しかし、個々の人生と都市社会との暖かな関係の数々を生む様なプログラムが全くビルトインされていなかったために、家庭の崩壊や高齢化生活の問題などが起こっています。かと言って、経済の仕組みや教育の内容程度が江戸時代とは全く異なるのですから、今の人たちの人生に十分納得のできる満足な価値観を創れるとは到底思えません。

新しい知識や社会の仕組み、その数の大きさ、技術の高度化などに対応した新しい暮らしの文化が、いま求められている、否、創り出そうとする息吹があちこちに見られる時代にさしかかっていると云えるでしょう。

文化とは、人間が自然に対峙し、その暴力的な面をしのぎ、やさしさや壊れやすさを受け補修し、共存していくための知恵や工夫の数々です。そして文明とは、人間と人間の衝突を避け、やわらかくし、皆が共通の約束事を守ってともに生きていくための仕組みです。

「まちづくり読本」(住宅・都市整備公団調査レポート)



“元祖”まちづくり読本 「飯能ビッグヒルズまちづくり読本」から、22年の歳月を経て出版した「フロンティアまちづくり読本」の‘或るコダワリ’
表紙のデザインから章立て・ページ数まで編集スタイルがそっくりな姉妹本に！

飯能ビッグヒルズ まちづくり読本

まえがき

I. ビッグヒルズの位置と時代

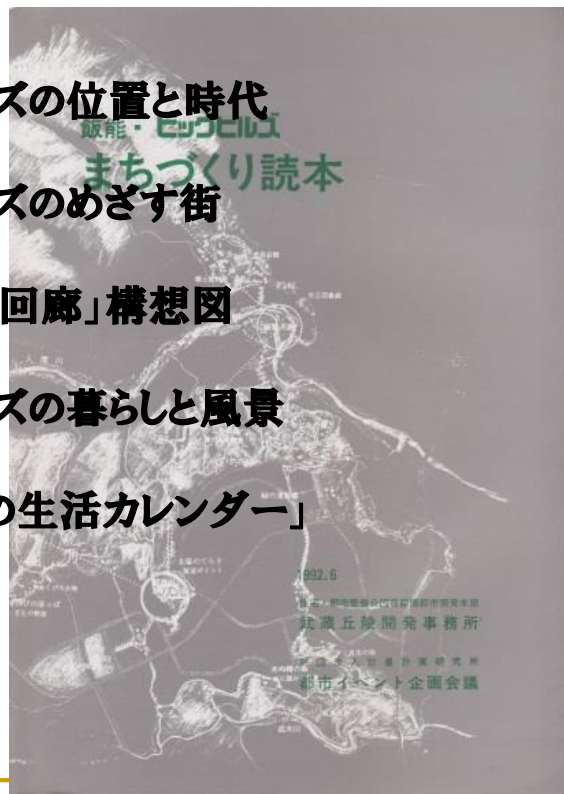
II. ビッグヒルズのめざす街

「飯能：自然の回廊」構想図

III. ビッグヒルズの暮らしと風景

「ビッグヒルズ的生活カレンダー」

あとがき



59P

1992. 6

ニュータウン転生 フロンティアまちづくり読本

プロローグ ーアジア最後のフロンティアー

I. 第1ステージ ーニュータウン転生レポート

フロンティアまちづくり読本
国土利用計画年表(前半)

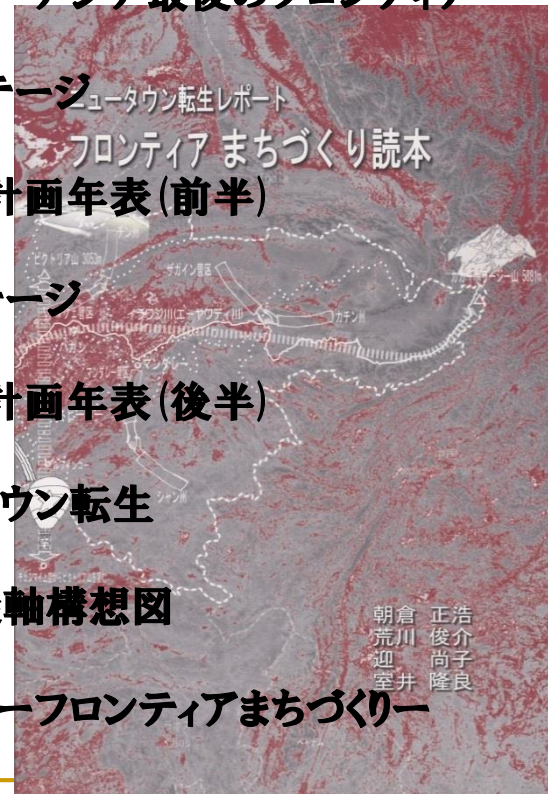
II. 第2ステージ

国土利用計画年表(後半)

III. ニュータウン転生

ビルマの縦軸構想図

エピローグ ーフロンティアまちづくりー



59P

2014. 2

朝倉 正浩
荒川 俊介
迎 尚子
室井 隆良

2012年5月12日 開通した「飯能・自然の回廊」を歩く

ビクトリア山登山の前年に自然の回廊 ハイキングルートが開通しました



都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 888号 :平成24年5月18日

□ 5月々例山行：飯能回廊 探索 (第3回)

全参加者が新ルート(龍崖山～燧山～県道)を踏破！

- 実施日：平成24年5月12日(土)晴れ
- 参加者：安原昭子、岩本、山本、宮本*2、室井*2、牛久保、横山謙、鈴木俊明、鶴見、石原力、植木、新澤、高田、朝倉*2：計17名(男11名+女6名)
- コース：飯能駅 10:10→天覧山 10:50→多主峯山 11:30(昼食)→吾妻峡 13:10→龍崖山 13:50→燧山 14:10→あさひ山 15:30→美杉台 16:30(解散)→飯能駅北口(有志で反省会)

○スタート前・・・

- ・前回は、南側の新ルート開拓のみだったが、今回は入間川北側の天覧山～多主峯山も含めた飯能自然回廊の南北全ルート歩く自然回廊/全通記念/企画である。参加者も関係者でもある現役メンバー(高田・植木・新澤)に事務所OB(横山・鈴木・室井)と緑チーム(鶴見・石原)に地元(高田・朝倉)が参加。安原さんは10数年ぶりのワングル参加であった。



○飯能駅をスタート・・・

- ・駅南口からブラブラと市街地・寺・墓地を抜け、登山口からは15分程で天覧山山頂に到着した。コンクリート造の見晴らし台は10数名のハイカーが、南に奥武蔵の山並みと富士山はあいにく見えなかったが東京スカイツリーをぼんやりと東遠方に見ることができた。



○多主峯山で昼食・・・

- ・天覧山から多主峯山へは、「マムシに注意！」と「笛の音」に誘われて、一旦湿地区を下り、常盤御前の「見返り坂」から山頂へと登り坂が続く。脇道を10数名トレッキングランナーに追い越され、標高271mの山頂に到着。山頂には木製テーブル・簡易ベンチ数基と石墓があり、20数名のハイカーが休憩・昼食中。我々も少し早目の昼食をとる。U+S 両氏は女学生6名に囲まれたベンチでの楽しい昼食となった。⇒写真



2014年2月26日 「ふろたん通信」創刊号発行

創刊号では、第2次ビクトリア山調査登山隊は、「ふろんていあタウン工房」(NPO法人設立準備室)とNPO法人「まちナビ倶楽部」との合同チーム編成になったことを伝えています。



ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 2月26日 広報センター

No. 1

MT.VICTORIA PROJECT

3月14日 ビクトリア山・現地調査に出発!

□機関紙創刊号です。

昨年3月に設立40周年記念としてミャンマー遠征ビクトリア山登山を行った、URワンゲル同好会がスタート時から発行している機関誌「渡り鳥通信」は、1973年3月20日付の創刊号からの最新号のNo.932(2014.2.13)まで続いています。それに倣って、NPO法人設立を目指していた2月に、最初の現地調査隊のメンバー紹介する機関紙創刊号発行の準備を進めていましたが、予想外の再申請手続き、認証時期が先に延び、頭に「NPO法人」が付かない「ふろんていあタウン工房」の機関紙「ふろたん通信」創刊号の発行ということになりました。

□調査隊メンバーと今回の現地調査活動

登山口でモタモタしているような感じになってしまいましたが、気を取り直して元気に、現地調査隊を送り出しましょう。3名の少数精鋭部隊です。ふろんていあタウン工房(URワンゲル同好会)から赤川勉調査隊長。当初から連携活動をお願いしていたNPO法人まちナビ倶楽部からは、二人の大ベテラン、森角武久さんと三宮満雄さんが参加されます。(3.14~3.20)

ビクトリア山の「花と緑の登山道マップ」作成に向けた現地調査と、啓発活動資料として作成中の小冊子「公園の登山道」について国立公園事務所スタッフの方達と意見交換をします。今までナマタン国立公園の植生調査を行ってきた牧野植物園スタッフにもお会いします。帰りのヤンゴンでは、色々と協力頂いている日本ミャンマー協会の現地事務所も訪問する予定です。

□社行会に、ご参加ください!

- ・日時:3月4日(火) 18:30~21:00
- ・場所:「びるまの竖琴」(渋谷区恵比寿2-8-13 Tel.03-5420-1686)
- ・会費:2,000円 ※出席される方は3/3迄に高田幹事へ連絡を(090-4824-2176)

2014年3月14～20日 ビクトリア山第2次調査



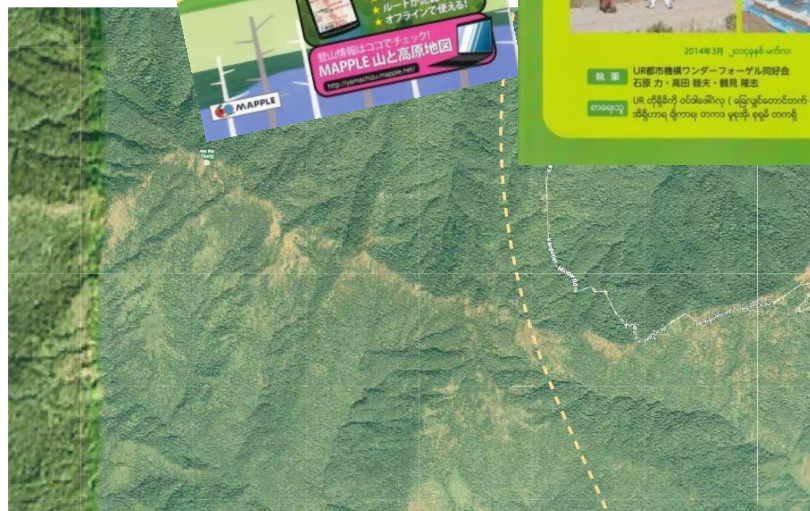
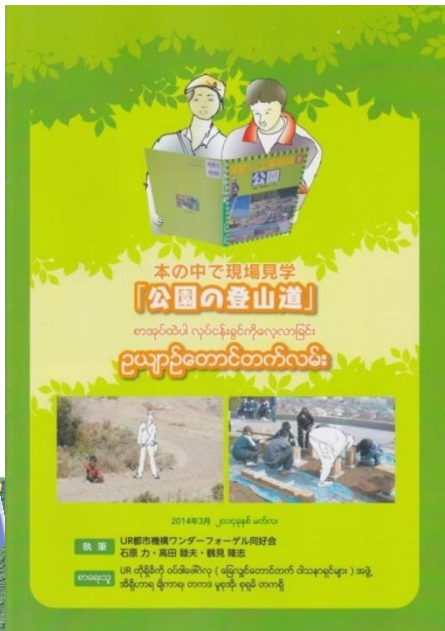
ガイドは第1次と同じウィメンティさん



JICA草の根調査(2006.9～2009.6)
スタッフとの意見交換会
安田さん(アース・ウオッチ・ジャパン)
田上さん(牧野植物園)
シェイン・ガイ・ンガイ前公園事務所長



第2次調査隊は、ビクトリア山の登山マップづくりを進めるために参考となる日本の登山マップ「御嶽山」と、日本の公園での登山道整備を子供たちに紹介する小冊子をナマタン国立公園事務所に届けました。



MT.VICTORIA PROJECT 20140316 みらんていあやうん工務



ティン・ミヤ・ソエ公園事務所長と藤川さん(牧野植物園)

「公園の登山道」は、山の自然を守り育てることの大切さを子供たちが学ぶようとURワンゲル同好会が執筆し、「ふろんていあタウン工房」が日本語・ミャンマー語併記で作成した小冊子で、「飯能・自然の回廊」での活動を紹介しています。



**本の中で現場見学
「公園の登山道」**

စာအုပ်ထဲပါ လုပ်ငန်းခွင်ကိုလေ့လာခြင်း
ဥယျာဉ်တောင်တက်လမ်း



2014年3月 1000冊分 無料

執筆 UR都市機構ワンダーフォーゲル同好会
石原 力・高田 睦夫・舘見 陸志

担当編集 UR とうきょう ひとあしあひら (せいのぞうとせいのぞうの びんぼうがく) 支社
あひらあひら ぶんぼう ぶんぼう ぶんぼう ぶんぼう

「公園の工事現場を訪ねてみよう」

2013年3月、興行出版から「見よう工事現場 @公園」という本が出版されました。この本は、一般の人たちがのぞくことのできない工事現場をシリーズで取材して紹介する少年・少女向けの本で、タワー、トンネル、ダム、橋、線路、港、道路と続き、第8巻の「公園編」では、埼玉県飯能市の龍窟山公園の工事現場が取り上げられ、本の中で「現場見学」をしています。

၂၀၁၃ ခုနှစ် မတ်လ တွင် တိုက်လုပ်ကုန် (မြန်မာနိုင်ငံတော်လုပ်ငန်း လုပ်ငန်းခွင်ကို လေ့လာကြည့်ရှုခြင်း) စာအုပ်ကို ထုတ်ဝေခဲ့ပါသည်။ ထိုစာအုပ်မှာ သာမန်လူအများ မသိမြင်နိုင်သော မြန်မာနိုင်ငံလုပ်ငန်းခွင်ကို ကာလအလွယ်များ မှားလည်စေရန် အပိုင်ခွင့် မှတ်တမ်းတင်ထားသော စာအုပ်ဖြစ်ပါသည်။

公園といえば、色々な木が植えてあり、遊具や広場があったりするところを思い浮かべますが、公園の工事現場は、作った後、土の下に隠れてしまっていて、普段は見ることのできないところの工事も多いです。●工事現場ではどんなことをしている？ ●工事現場で見つけた車両や機械、それぞれの現場の人にインタビューをしながら、工事現場の1日の「現場見学」が進みます。



「龍窟山公園ってどんな公園？」というインタビューに、公園設計を担当した人が、公園の特徴について話しています。

「龍窟山公園は、埼玉県飯能市の中心から2kmの丘陵地のまちづくりで整備された公園で、公園の外側に緑地が整備され、その間路が、昔から市民に親しまれている「龍窟山」まで繋がっていることから「龍窟山公園」と名づけられました。

この本が出版されたのは、2013年3月です。この本は、一般の人たちがのぞくことのできない工事現場をシリーズで取材して紹介する少年・少女向けの本で、タワー、トンネル、ダム、橋、線路、港、道路と続き、第8巻の「公園編」では、埼玉県飯能市の龍窟山公園の工事現場が取り上げられ、本の中で「現場見学」をしています。

၂၀၁၃ ခုနှစ် မတ်လ တွင် တိုက်လုပ်ကုန် (မြန်မာနိုင်ငံတော်လုပ်ငန်း လုပ်ငန်းခွင်ကို လေ့လာကြည့်ရှုခြင်း) စာအုပ်ကို ထုတ်ဝေခဲ့ပါသည်။ ထိုစာအုပ်မှာ သာမန်လူအများ မသိမြင်နိုင်သော မြန်မာနိုင်ငံလုပ်ငန်းခွင်ကို ကာလအလွယ်များ မှားလည်စေရန် အပိုင်ခွင့် မှတ်တမ်းတင်ထားသော စာအုပ်ဖြစ်ပါသည်။

2014年6月16日 NPO法人「ふろんていあタウン工房」設立

「ふろタン通信」No.3からNPO法人が頭についた通信になりました

6月26日 第1回総会開催

遠征体制の強化を図るとともにビクトリア山と御嶽山が裏表になったガイドマップの作成に着手する

9月27日 「ツーリズムEXPOジャパン」の
ミャンマー出展コーナーで、
「御嶽山噴火」の知らせを聞く



前年の同じ9月の第4土曜日URワングル同好会は、月例山行で御嶽山に登っていました。

前年(2013年9月)の「御嶽山行」を報告する渡り鳥通信



登っていたのはビクトリア山第1次隊と2次隊のメンバー、「**二つの山の堅い契り**」の予感！

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 920 号:平成 25 年 10 月 18 日

□ 9 月 月 例 山 行 の 報 告

天候に恵まれ、最高の展望を満喫 『御嶽山 (3,063m)』

日 程：平成 25 年 9 月 28 日 (土) ~ 29 (日)

参加者：江頭、室井、赤川、鶴見 計 4 人

1. 急登の連続

JR 高尾駅に集合して、赤川車で登山口を目指す。途中、コンビニで弁当を購入し、登山口である田の原駐車場で早めの昼食。

11:00 スタート。晴天で、既に頂上と山小屋が見える。登山口近くは緩やかだが、後は頂上までの一直線の急登の連続。足元には大きな石があり、歩きにくい道である。また、宗教の山だけあって、途中、大江権現、金剛童子などのポイントには、仏像などが祀られている。

14:20 大滝頂上奥社(2,936m)に到着。想像以上に立派な社殿。近くの斜面からは噴煙が上がり、硫黄の匂いも漂っている。さっそく大滝頂上山荘に宿泊を申し込む。本日の宿泊客は 10 名程度。我々 4 人で 10 畳の個室に案内され、余



田の原(登山口)



金剛童子(8合目)



大滝口頂上奥社

2014年12月10日 「ふろタンインタビュー」 スタート

第1回カフェと雑貨「ぼれやあれ」
不思議な店の名前のこと
ミャンマーの珈琲農園を探して
ミンガラバー・ユネスコクラブ



2015年3月に日本ユネスコ協会連盟に加盟承認され、5月31日に設立総会を開き「ミンガラバー・ユネスコクラブ」がスタートしました。

「ユネスコカフェ」を定期的に行って交流と親睦を図りながら、機関紙「ミンガラバーだより」を発刊して情報発信し多彩な活動に取り組んでいます。

ヤンゴン郊外モービー郡の「コミュニティーフォレスト生活の森」の植樹プロジェクトに参加したメンバーが、「第1回ユネスコカフェ」で報告する様子を、「ミンガラバーだより」創刊号に載せています。

安彦隆さん 小野寺有菜さん

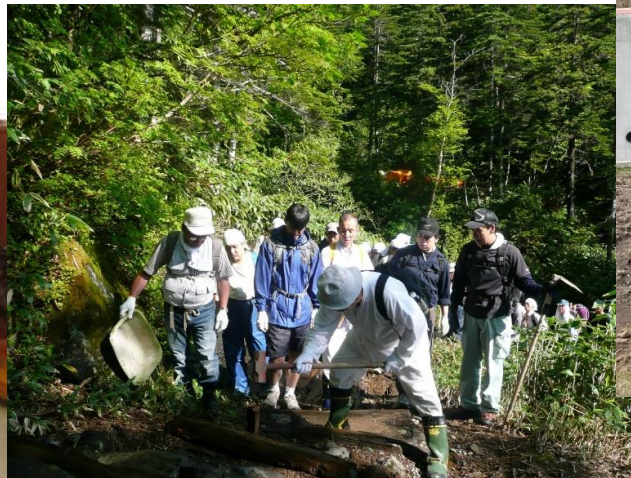
2015年4月27日 第2回 「ふるたんインタビュー」

「御嶽山」と「百草丸」

木曾ユネスコ協会と御嶽山登山道整備活動
伝承薬「百草丸」と木曾路の未来



井原正登さん



2003年に設立された木曾ユネスコ協会が、2007年から行っている御嶽山の登山道整備活動は、2014年9月の噴火後も変わることなく毎年行われています。

御嶽山・木曾路の魅力を高めながら地域の一体化・活性化を目指す「木曾丸ごと夢作り活動」は、一里塚跡の復元や楽器バンドーラの製作活動など色々な取り組みを進め、木曾の地域遺産を未来の子供たちに残して行こうとしています。

2015年7月8日 ふろタン工房創立1周年記念懇親パーティーが URワンゲル同好会と協賛で 第3次調査隊派遣壮行会を兼ねて行われました

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信

2015年 8月 17日 広報センター



No. 10

ふろんていあタウン工房創立1周年

二つの記念行事の報告です！

□7月2日～3日「御嶽山慰霊活動」

URワンゲル同好会との共催で計画、木曾ユネスコ協会の御嶽山麓登山道整備活動に参加しました。

翌日に企画していた木曾駒ヶ岳登山は、悪天のため宿場町巡りだけになってしまいました。ワンゲルの「海鳥通信」が7月6日付のN0959号で活動報告をしていますので、登山道整備の部分を選択して転載します。報告者は、URワンゲル同好会マネージャーの「鶴見御嶽部会長」です。

『悪戦苦闘の笹刈り作業』スタートは、御嶽山の東側からの登山口である黒沢口の6合目にある「中の湯駐車場」。ここから、登山道をふさぐ笹を刈りながら下山して、5合目の「三笠山登山口」を目指しました。作業は、草刈り機を持った1名が先頭をザックリと刈り進み、残りの3名が、カマ、ナタを使って笹を刈り、登山者が歩ける程度の空間を作って降りていくというものでした。このコースは、一般の登山者はあまり歩かないことから、びっしりと笹に覆われていて、登山道がわからなくなっている箇所も多々ありました。筆者は、ナタを使いましたが、最初は笹を刈るコツがつかめず、悪戦苦闘。後半からやっとコツをつかんで、気持ちいいくらいに笹を刈りながら進むことができました。ただし、作業終了時には汗だくで、翌日は、普段使わない筋肉を使ったせいで疲労困憊。

夜は、木曾ユネスコ協会会長で日野製菓の社長さんご紹介で、木曾福島の古い街並みの中にあるお食事処で打ち上げをしました。おいしい料理でした。

登山道での笹刈り作業

木曾ユネスコ協会会長さんと(中央)

黒沢口からの御嶽山



□7月8日 1周年記念活動報告会+懇親会

こちらはワンゲル同好会の協賛で、新宿アイランドタワー17FのUR食堂で開催した懇親パーティー、40周年を超えたワンゲルの歩みから誕生した「ふろタン工房」の話などを交え楽しい時間を過ごしました。

『出席総数25名』普段はあまり顔を合わさない賛助会員の皆さんも参加し、会員19名+入会候補者1名の他、色々とお付き合いしている「まちなび倶楽部」からは森角さん三宮さんと丹羽さん、「ミンガラバー・ユネスコクラブ」からは小泉さんと大野さんに出席いただきました。ワンゲル同好会の海外遠征(20周年のキリマンジャロ・35周年の玉山・40周年のピクトリア山)に唯一人皆勤賞の江頭さんの「乾杯！」でスタート、ピクトリア山登山のビデオなどを流しながら、今まで準備をしてきた「飯能部会」「御嶽部会」「森林部会」の三部会体制での活動推進について、今年度は体制の充実を図りながら試運転し来年度から本格実施することを少し話し合い、あとはひたすら楽しく雑談。最後に今年11月の第3次調査登山に参加する瀬川さん・森下さんの決意表明を聞き、宮本ワンゲル同好会会長の「締め」でお開きとなりました。

『三部会体制での活動推進のお願い』三部会のチーム体制づくりに向けて「Ⅰ.朝倉飯能部会長」「Ⅱ.鶴見御嶽部会長」「Ⅲ.森下森林部会長」から皆さんに、各部会への参加のお願い・勧誘があります。現会員・賛助会員の皆さまにはぜひいすれかに所属いただきますようお願いいたします。三部会の違いは…？ 活動場所でおおまかに分類すると、Ⅰは郊外の山が身近なまちの集落、Ⅱは地方の山村の集落、Ⅲはピクトリア山麓の集落、といったところでしょうか。共通のキーワードは「辺境のタウンづくり」(強制ではありませんが是非ご参加ください。掛け持ち参加・大歓迎！)

□「第3回ふろタンインタビュー」を8月中旬にホームページにサイトアップの予定です。タイトルはお盆明けらしく(?)「天空の山の「笹」の造形」中身は見てのお楽しみです！

8月14日現在の会員メンバー

※新入会員

正会員：室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩 高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 山本稔 森下毅一(13名)

賛助会員(個人)：安田重雄 川添修 岩本善恵 牛久保亮一 小平和司 高橋修司 青柳志郎 迎尚子 岡島史祥 安達哲郎 前澤一雄 鈴木俊明 大墨宗重 長野啓 三田村喜己男 小島正勝 前園耕夫 林和馬 佐藤智哉 桑島義也 高橋美穂 田中俊美 渡邊牧子 六郷昌紀 平井和夫 竹川清和 江頭謙二 伊藤宏一 内崎千晴 水口雅恵(30名)

賛助会員(団体)：(株)ピース・イン・ツアー(八井麻由美) (株)アルテップ(荒川俊介)

(有)ブラディ・アソシエイツ(深島一郎) 昭和(株)(高木長門) (株)都市開発リサーチ(菅野雅樹) (株)ヨシモトボール(柳澤江) (6社)

2015年8月13日 第3回 「ふろたんインタビュー」

天空の山と「祈りの造形」

彫刻のある街かど実験と宇津木台の竣工記念碑
「祈りの造形」西村公朝の時空を歩く
高尾山の天狗面像とパゴダのあるピクトリア山



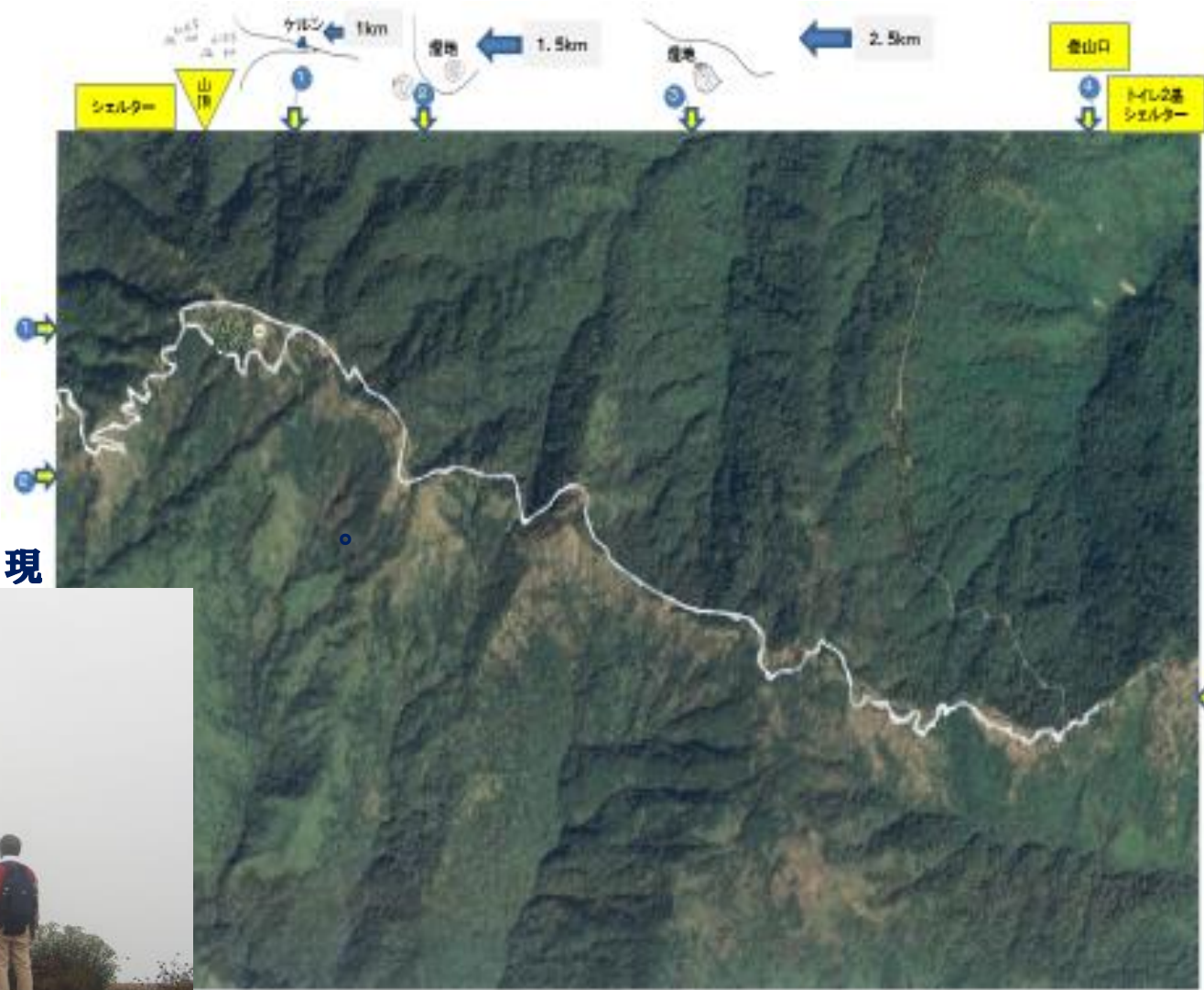
国鉄が「ディスカバージャパン」で日本再発見ブームを展開していた1978年、中央線の高尾駅のホームに薬王院天狗面の石像が出現、成田山・川崎大師と並ぶ真言宗の関東三大本山の一つである高尾山薬王院を活かして、地域の活性化を目指した大成浩さんの作品です。

主催する「石空間展」が25周年を迎えた2015年は、西村公朝生誕100年の年、お父上の意志を継いで「祈りの造形 評伝・西村公朝の時空を歩く」を出版された大成栄子さんとご一緒に、仏塔のあるピクトリア山との懸け橋になるお話を色々と伺いました。



大成浩さん・栄子さんご夫妻

2015年11月16～23日 第3次隊はトレッキングルートと自然植生の調査隊



三角点ピークには大仏様が出現
(ブッダピーク)



衛星携帯電話と万歩計を使って距離と時間を調査



ガイドのチョーさんとチン族の娘さん達



帰国報告会(2016.1.20)での3次隊メンバー

第3次隊帰国レポート

「OYAJI3匹ナマトンを目ざす」

みすずライブラリー



アウンサンスーチー演説集

伊野憲治編訳

アウンサンスーチー演説集

伊野憲治編訳



9784622050018



1910331028842

ISBN4-622-05001-3

C0331 P2884E

定価 2884円
(本体 2800円)

アジアの女性として初めてノーベル平和賞を受賞したアウンサンスーチー、彼女は、ミャンマーの民衆に何を語り、訴えかけたのだろうか。本書からは、その生の声が聞こえてくる。〈人は権力によって墮落するのではなく、恐れによって墮落する〉ここには、ガンディーの非暴力主義の思想を継ぎ、父アウンサンを道を実践する彼女の姿が鮮やかに映されている。そして彼女は、ミャンマーの民衆とともに一つの夢を抱く。〈誠実さ（ティッサータヤ）をもって、全ての人々が行動すれば、私たちの国は繁栄するのです。国が繁栄すれば、後世の人々は、尊敬をもって、世界の中心に位置することができるでしょう〉。

出発の1週間前の11月8日ミャンマーでは国の総選挙が行われ、アウンサンスーチー氏の率いる野党・国民民主連盟(NLD)が議席の8割を獲得し大勝、政権移譲を拒む何らかの世情不安があるのではとの不安を抱きながらの出発であったが、現地入りしてそれは全くの取り越し苦労であったことがわかった。

誰もが民主化開放に向けた勝利を静かに受け止め、発展を信じているようで、この国の活力に未来を感じた。(ピース・イン・ツアーのホームページ「お客様の旅日記」に掲載)

みすず書房

みすずライブラリー

2015年12月13日 第4回「ふろタンインタビュー」

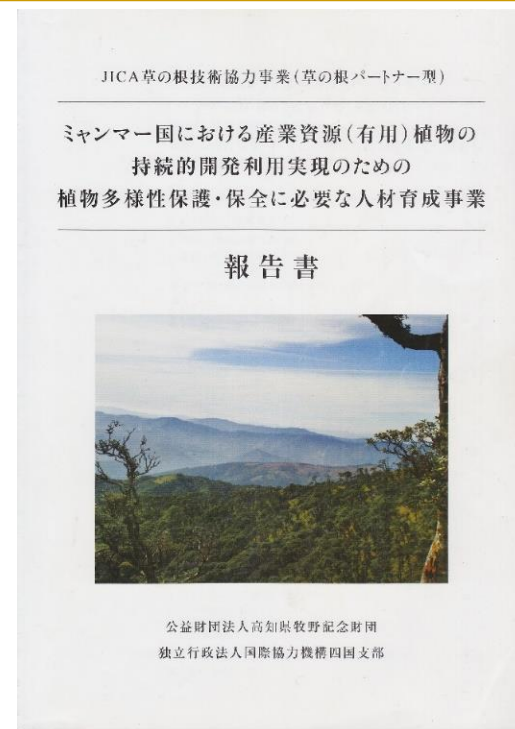
「植物図鑑で森守れ」

**ナマタン国立公園の有用植物資源調査
2015年7月2日付「東京新聞(夕刊)」**

2006年9月から2009年6月の3か
年のJICA支援の草の根技術協力で
ミャンマーのナマタン国立公園の有
用植物調査に取り組まれた、「アース
ウォッチ・ジャパン」の安田重雄さん
と「牧野植物園」の藤川和美さん。

2013年3月の第1次調査隊がピク
トリア山登山口で安田さんに偶然お
会いし、帰国後に戴いた「調査報告
書」は、今でもふろタン工房が一番
頼りにし大切にしている参考書です。

藤川さんは、ミャンマーの植物図鑑
づくりに引き続き取り組んでいます。



藤川さんと安田さん

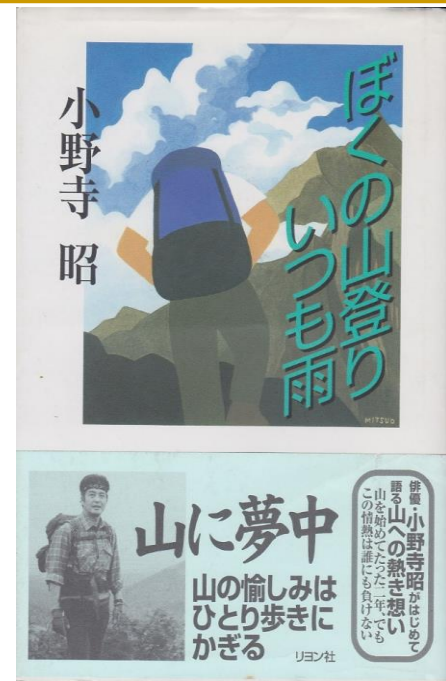
2016年5月19日 第5回 「ふろタンインタビュー」

「百名山登山にも色々なシナリオがある！」

十勝会館前の小山のある遊び場
役者人生と単独行の山

毎日新聞夕刊の「目標は百名山踏破、演技に通じる感動」という記事で、山登りを始めたのは52歳を過ぎてからと話されていた小野寺昭さん、その二年後に書かれた本「ぼくの山登りいつも雨」を手にしながら「百名山談議」を伺いました。

ふろタン工房が製作中の「ストーリーマップ」では、「日本百名山」を目指してその数が増えるのを楽しみながら登っている山好きの人たちが、日本には数多くいることを紹介しています。



小野寺昭さん

「ミャンマーの手しごと雑貨の店」

ミャンマー祭り2016の「dacco.」のお店
ミャンマーの伝統技術の継承

11月の恒例行事になった「ミャンマー祭り」、会場の芝の増上寺の正門を入ったすぐ前のテントの店「dacco.」、客で賑わう店の前での突撃インタビューです。

店主の和田さんは、母から子へ伝えられてきた繊細な編み物技術など、ミャンマー各地の伝統的な工芸品づくりを支える職人さんの技を適正な報酬で広く流通させたいと、2010年にヤンゴンで手しごと雑貨の店「dacco.」を立ち上げました。ミャンマーの人たちが伝統技術と文化に誇りを持ち続け、日本とミャンマーとの親しい交流の場づくりを目指して取り組んでいます。



和田直子さん

2016年11月27日 「ストーリーマップ」 一語りかける地図一

御嶽山とビクトリア山が表裏一体となって山を愛し大切に
する人たちに語りかける地図が、「ミャンマー祭り2016」
でデビューしました。

協力;木曾ユネスコ協会
ミンガラパー・ユネスコクラブ

ストーリー・マップ

— 語りかける地図 —

御嶽山とビクトリア山

outakesan



「日本人ほど山を崇び山に親しんだ国民は、世界に類がない。国をはじめた昔から山に縁があり…日本人の心の底にはいつも山があった」

— 「日本百名山」(深田久弥著)の「後記」より—

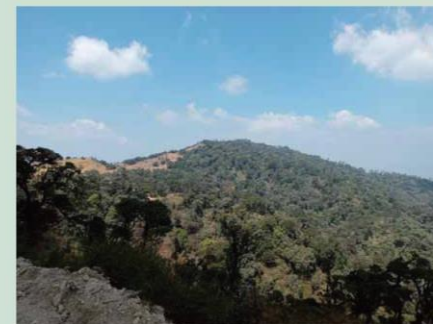
特定非営利活動法人
編集・発行 ふろんていあタウン工房
協力 木曾ユネスコ協会

ストーリー・マップ

— 語りかける地図 —

御嶽山とビクトリア山

mt.victoria



世界の三大仏教遺跡に数えられるバガン、その西方のチン州の山岳地帯に聳えるビクトリア山。チン族の言葉で「母の山」を意味する山、豊かな自然の中にあるこの山一帯は国立公園に指定されています。

特定非営利活動法人
編集・発行 ふろんていあタウン工房
協力 ミンガラパー・ユネスコクラブ

ストーリーマップ ー語りかける地図ー

「御嶽山とビクトリア山」

英訳版とセットで販売しています
定価1,500円+税

STORY MAP
— A map that tells stories —

Mt.Ontake and Mt.Victoria



“No other people in the world hold more reverence and affection to mountains than the Japanese. From the olden days, such sentiments have always been at the bottom of our soul.” (From the afterword to the book “One Hundred Mountains of Japan” by Kyūya Fukada)

Nonprofit Organization
Published Frontier Town Atelier
Co-operator Kiso UNESCO
Translation Michiko & Tadashi MORITA

STORY MAP
— A map that tells stories —

Mt.Ontake and Mt.Victoria



Mt. Victoria situates in the mountainous area west of Bagan, the city known for the stunning Buddhist ruins, in the Chin State of western Myanmar. The mountain is called Nat Ma Taung in Chin language, meaning ‘Mother Mountain’ and the surrounding area rich in nature is designated as a national park.

Nonprofit Organization
Published Frontier Town Atelier
Co-operator Mingalaba UNESCO
Translation Michiko & Tadashi MORITA

日本とミャンマーとは、ビルマの時代からの長い歴史の中で、深い交わりがあった国です。

両国の「山と共に生きる地域づくり活動」に取り組む町や村が互いに協力し、親交を深め、「手を繋ぐ名山・山麓都市友好交流ネットワーク」を形成する…この「ストーリーマップ」は、そんな「夢」に向かうガイド役になりたいと思っています。

2017年4月21～30日 スタディツアー2017

ビクトリア山 (バゴダビー)



バゴダビー



標高3,053mの**ビクトリア山トレッキング**とチン族が育んできた**織物技術見学**を組み合わせた山と共に生きる地域づくりを学ぶスタディツアーです。

日本の山岳・高原地帯で自然環境を保全し、歴史ある地域産業を守り育てている人々との交流を深め、ビクトリア山と日本の山とつなぐ日韓双方向交流型スタディツアーの実現を目指しています。

今回は**日本発の第1回スタディツアー**です。遺跡のまちバガン西方の高原地帯に出かけてみませんか？

●開催時期: 2017年4月22日～28日
●申込締切: 2017年3月3日
●旅行代金: 253,800円(1人様)

●旅行企画: 株式会社 風の旅行社
●受託: 株式会社 ビース・イン・ツアー

●現地プログラム企画:
・特定非営利活動法人「ふろんていあタウン工房」



世界三大仏教遺跡群「バガン」



ビクトリア山トレッキング



チン族の伝統織物

チン州伝統織物



ビクトリア山トレッキングと**伝統織物**に触れる

訪問国: **ミャンマー** スタディツアー **7日間**

日本発の第1回ツアーは
ストーリーマップを手にして出かける
ビクトリア山トレッキングと
チン族が育んできた
織物技術見学を組み合わせた
スタディツアーです

■ 旅行日程 (現地側の都合などによって変更になる場合があります。)

日付(曜日)	プログラム	宿泊地
1日目 4/22(土)	10:35 羽田空港発(タイ国際航空)バンコクにて乗り継ぎ 18:45 ヤンゴン空港着	ヤンゴン
2日目 4/23(日)	早期ヤンゴン空港発 ニャンウー空港(バガン)着 専用車でカンペレ町へ(所要約8時間) ホテル(標高1300M)	カンペレ
3日目 4/24(月)	終日 ビクトリア山トレッキングとミャンマーの織物見学 ホテルから専用車で登山口(標高2700m)、山頂(3053m)までのトレッキングの後、機織している民家や市場にて織物見学	カンペレ
4日目 4/25(火)	専用車で遺跡のまちバガンへ(所要約8時間)	バガン
5日目 4/26(水)	終日 バガン遺跡群観光 とバガン近郊の村巡り (アーナダ寺院、シュエスィーゴオンパゴダなどを巡り、シュサンドパゴダに登ってイラワジ河に沈む夕日を眺める)	バガン
6日目 4/27(木)	AM ニャンウー空港発ヤンゴンへ PM ヤンゴン市内ミニ観光(シュエダゴンパゴダ、アウンサンマーケット他) 19:45 ヤンゴン空港発(タイ国際航空)バンコクにて乗り継ぎ	機内泊
7日目 4/28(金)	6:55 羽田空港着(解散)	

ツアーのポイント

■ **ビクトリア山トレッキング**
ナマタン(英語名:ビクトリア山)国立公園でのトレッキングを楽しむ。

■ **チン州織物技術**
山麓の村での伝統的な織物技術・文化に触れる。

■ **バガン遺跡観光**
世界三大仏教遺跡群(バガン)無数のパゴダと寺院が点在する壮大な仏教遺跡群は圧巻です。

★ 一人様での参加
大歓迎です!

2017年5月12日 スタディツアー2017帰国報告会

ふろんていあタウン工房が企画した初の「スタディツアー2017」は、想定外の単独行になりました。旅人は藤田直人、実は22年前にもミャンマーに行っています。日程はどちらも10日間、発着空港の成田と羽田が違うだけで、どちらもバンコク経由そしてどちらもひとり旅！今回はスタディツアーから変身した個人旅行のような旅になりましたが、国内便を使わずにバスで移動するなど、藤田流のヒッチハイクスタイルが色濃く反映しています。「帰国報告会」は、5月12日(金)日本橋のURリンケージ会議室で行いました。



1995年・バガン



2017年・ビクトリア山



1995年・エーヤワディー川



2017年・エーヤワディー川

「ミャンマーの時の流れを想う」

**ビルマの時代に過ごした中学生生活
農村の暮らしを豊かにするために！
次世代につなぎたいこと**



ビルマの時代の1980年代前半、お父さまの大使館勤務で家族でビルマに行き、ラングーン日本人学校で中学生生活を過ごした岡本さん、この3年間が原体験になって発展途上国の開発経済学を目指し、1998年～2000年はアジア経済研究所の海外派遣員としてミャンマーでの2度目の滞在。

現在は東洋大学国際地域学部でミャンマーの農村の暮らしに如何に豊かさをもたらすか、毎年学生を連れて農村調査に訪れます。

思いどおりにならないから面白い、失敗を恐れずに果敢に挑戦をと次世代の学生たちに伝えています。

岡本郁子さん

2017年9月27日 第8回 「ふろタンインタビュー」

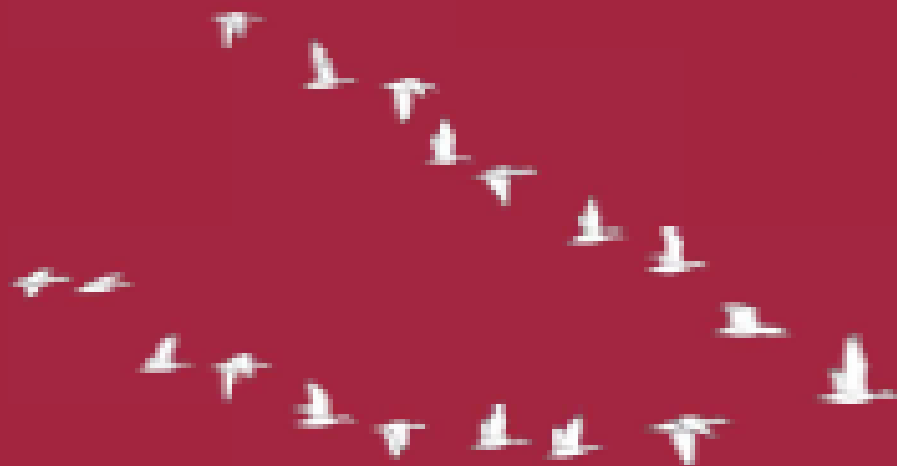
〈ひるまの豎琴〉で「ビルマの豎琴」
ミャンマー料理店〈ひるまの豎琴〉
「ビルマの豎琴」と昭和の記憶
それぞれの未来に向かって

恵比寿のミャンマー料理店「ひるまの豎琴」の名前はどのようにして決めた？店主ココさんが「ビルマの豎琴」を知ったのは、本？それとも映画？店のテーブルの上に発行年が異なる数冊の「ビルマの豎琴」の本を並べてのインタビュー。

太平洋戦争末期のビルマ戦線でのインパール作戦、お父上が白骨街道から帰還した兵士の一人だった林さん、生死を共にした人たちが遺っていた資料・幻の出版本の話など伺いながら、歴史を遡った昭和の記憶を色々と話し合いました。



ココさん・林茂雄さん



「特定非営利活動法人ふるんていあタウン工房」は
目的を共有する人たち・団体の方々との協力・連携ネットワークづくりを進め
「山と共に生きる地域づくり」に「愚公移山」で取り組みます